Meeting

2017.2/2・3/15 松本市議会・建設環境委員会のみなさんとの意見交換会を実施。

2月2日（木）と3月15日（水）夜、松本市市民活動サポートセンターで、松本市議会常任委員会のひとつである建設環境委員会のみなさんとの意見交換会を行いました。同委員会からは議員6名（2回目は7名）と事務局スタッフが出席、エネットまつもとからは会員 9 名が出席し、松本市の再生可能エネルギー地産地消推進計画を題材に2回にわたって会を実施。

第1回目の会では、昨年7月に策定された再生可能エネルギー地産地消推進計画にどんな課題があるか、どんなことに取り組むべきか、主に市民参加・市民協働からの観点を中心に意見を出し合いました。

第 2 回目は、市民に対する普及・啓発についてと、事業者の取り組みの普及促進の 2 方向についての具体的な方策と考え方についていろいろな意見交換を行いました。

業者メリットについても優遇税制、エコ・グリーン経営への優遇対応、また、人材育成の重要性など、具体的な討議ができました。市民への普及・啓発については、いろいろな考え方やアイデアもでてきましたが、効果を出すことの難しさを感じた会でした。

市が本気で取り組むことが大切であることなど、今後、市議のみなさんとの意見交換が継続的に実施できることを願います。

地域にあるものを活かすくらし

未来の子どもたちから「借りている地球や地域」を、良いかたちで返すため、自然豊かなこの地らしいエネルギーの地産地消をめざして－。

私たちといっしょに「考え」「学び」そして「行動」しませんか。

会員募集中です

入会は個人登録制です。現在、約３０名あまりの人が活動に参加しています。自然エネルギー関連の事業をされている方もいらっしゃいますが、多くの方は一般の市民の方々です。松本地域をはじめ、伊那、長野、諏訪からも参加されています。

入会の方法 ●年会費 2,000 円（入会金はありません）

ホームページの入会申込書（Word）を入手ください。

↓

必要事項を入力（記入）後①電子メールで送付、または②プリントアウトしてFAXにて送付、あわせて指定口座に会費を入金してください。

↓

入会後は、メールで情報をお届けします。各種会議・イベント・学習会へ自由に参加いただけます。

Study

会員以外の方も参加できる「自由参加型の学習会」を月１回開催しています。お気軽にご参加ください。

2012 年 8 月にスタートした「学習会」は、エネットまつもとの月 1 回の定例イベントとして定着しています。どなたでも無料で自由に参加できるアットホームな学習会です。ぜひ一度、見に来てみませんか。会場は「松本市市民活動サポートセンターの会議室」です。（開催時間は通常 19：00 ～ 20：30）

2016 年度も「持続可能な社会を考える」を基本テーマに、環境、省エネ、エネルギー問題などバラエティに富んだテーマで実施。下記は 2016 年 1 月から 2017 年 4 月までの学習内容です。

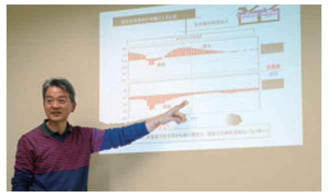
※詳しくはホームページでご覧ください。

2016

- ●1 月 「木の文明を考える」
- ●2 月 「エコハウスのウソ」
- ●3 月 「エコハウスのウソ」後編
- ●4 月 「食糧問題」
- ●5 月 「電力自由化とエネルギー問題」
- ●6 月 「電力とは何か!発電・送電の基本的仕組みと電力システム」
- ●7 月 「クールチョイスとは何か?その課題とは」
- ●8 月 「原発プロパガンダ」
- ●9 月 「地球温暖化（気候変動）と異常気象の最新状況」
- ●10 月「LCA（ライフサイクルアセスメント）を学ぼう」
- ●11 月「地球温暖化対策の世界の動き~パリ協定と COP22 速報~」
- ●12 月「諏訪のメガソーラー」「常総市鬼怒川氾濫について」

2017

- ●1 月 「地球の歴史からみる地球環境問題 ～地球の奇跡～」
- ●2 月 「海の環境問題を考える」
- ●3 月 「バイオマス関連施設視察報告」
- ●4 月 「エネルギー問題～都市ガスおよびエネルギー全般～」



詳しくは、ホームページをご覧ください。

スマホでアクセス！

●**イベントの情報**は ホームページの最新情報でご確認ください。

●**過去のイベントの様子**は ホームページのレポートをご覧ください。

http://www.enet-matsumoto.net　自然エネルギーネットまつもと　検 索

https://www.facebook.com/enet.matsumoto/　フェイスブックもご覧ください。

自然エネルギーネットまつもと

※エネットまつもと＝自然エネルギーネットまつもとの通称

自然エネルギーネットまつもと通信

action

Think together and action **008**

2017 年 4 月 30 日発行 **第8号**

人口減少と松枯れで荒廃する豊かな自然の四賀地区をバイオマス燃料の産地に変えたい。

結婚を機に 30 歳で東京から四賀に戻り、実家の建設会社に入った藤森さん。当時は下水道工事が花盛りで業績も上向き。しかしその後、10 年以上の右肩下がり景気で業界が冷え込み、何社も建設会社が倒産したという。当時から「こんな公共事業景気は長く続かないんじゃないかな」と予見していた藤森さんは、多角的な経営を模索し始めた。

2004 年（平成１６年）、商工会の青年部の部長に就任すると、四賀地区の特産品開発に尽力。「長野県内には観光や特産品といった独自の資源で頑張っている地域がたくさんあるが、四賀には何もない。新しい事業が必要だ！」。仲間の反対を押し切り、合鴨農法による有機はぜ掛け米にチャレンジ。また、養蚕が盛んだったことで多く生育していた桑の実でジャムをつくった。しかし、有機はぜ掛け米の難しさ、草との戦いに耐えられず、3 年で断念。ジャムだけは今も継続している。

試行錯誤を繰り返していたとき、四賀林研の山岸会長と出合い、森林資源の有効利用の可能性を見いだす。ところがそんなとき、松食い虫の被害が四賀地区を襲い始める。「四賀に木質バイオマス発電所が実現すれば松枯れ材が利用できる」そんな考えを抱くようになっていった。折しも東北の大震災が起こり、ますます木質バイオマス発電事業に傾倒、知識と協力者を求め事業目的でエネットまつもとに参加することになる。

木質バイオマス事業はとにかく需要が生まれないと進まないが、もし需要が生まれたら四賀の木質バイオマスを安定供給する事業に取り組みたい。「四賀にはもともと山を所有し木を切ることが得意な人がたくさんいる。だから、見本地区になり得る」という。

昨年、長年のアパート住まいから四賀の実家に戻った。持ち家に暮らすことで、薪ストーブなど自然エネルギーをより自分事で考えられるようになったそうだ。藤森さんの今後の行動に注目したい。

藤森 賢 さん

Ken Fujimori

1964 年、四賀村（現在：松本市四賀地区）生まれ。松本深志高校卒、横浜国立大学土木工学科・大学院の修士課程を修了後、1989 年（平成元年）に大手の建設系コンサルタント会社へ就職。最初の仕事は豊洲の盛土安定計算だった。6 年間の勤務後、結婚を機に実家の建設業を継ぐべく四賀に戻る。2007 年（平成 19 年）に株式会社藤森組代表取締役に就任し現在に至る。大学生の息子さん 2 人と小学生の娘さん 1 人の父。

action people #5

信念をエネルギーにして、真っ直ぐに行動を起こすことができる藤森さん。素敵な action people です。

自然エネルギーネットまつもとは、地域にあるものを活かすくらしを応援しています。

藤森さんの案内で「四賀地区見学」を実行。

四賀地区在住の藤森さんとモミガライト製造販売の岡さん、そして広報担当の渡辺というエネットまつもとの3人で、四賀地区の山の現状などを視察しました。

action のインタビュー取材のために四賀地区で建設業を営む藤森さんを訪ねた。「インタビュー取材の前にちょうどいい機会なので四賀を案内しますよ」という藤森さんの言葉に感謝しつつ車に乗り込むことに。

最初に案内されたのは、伐材を薪に炭焼き機をストーブ代わりにしてビニールハウスを加温し、冬場の葉物野菜を育てる試験をしているハウス※。ちょうど灌水でこられるというハウスを管理する梶原さんから、成果とハウス暖房の難しさについて話を聞く。松枯れ材の利用も視野に入れたこの試験の成果で新しいプロジェクトが動き出すのを見守りたいと思う。次に訪れたのは、松枯れで危険木になる前に伐採を実施している民家の裏山だ。直径1 m 近い樹齢50~100年を超えるだろう松が斜面一面に切り倒されていた。これほど立派なアカマツは見たことがない。移動の道すがら案内してもらったのは、廃校になった4つの小学校。取り壊す手間と費用を考えるとリユースの可能性を模索できないものだろうか。大きな空き家に間違いないのだから。バイオマス事業利用の可能性はないのだろうか。

藤森さんが「見せたいところがある」といって着いたのは、見渡す限りビニールをかけられた松枯れ材が広がる林。松茸山の一部だという。伐採し薬剤処理し長年放置され続けている材を燃料資源として使えないか思案する藤森さんだ。最後に「ここも見てほしい」と車を止めた街道の斜面を見てびっくり。枯れた松が根元から折れて重なりながら倒れているのだ。大雨や雪の日は倒木が道をふさぎ、電線を切るという。やがては標高の低い四賀エリアのアカマツが無くなることが予見される。山の再建のためにも松枯れ材を有効利用できる対策をとることが急務。次ページで紹介する安曇野市でチャレンジしている「再活の松プロジェクト」も対策の一つとして期待したい。

※「農業法人かまくらや」と「四賀梶原農園」の共同プロジェクト。

燃料は松枯れ材。円柱型無煙炭焼き機を薪ストーブ代わりに、冬のビニールハウスを加温。

温度ムラを無くす工夫が大きな課題。葉物野菜を栽培試験中。

樹齢 100 年を越すアカマツも、松枯れの進行に伴って次々に伐採しなくてはならない現状だ。

松茸山が、今は枯れ松の貯木山に。資源として、また燃料として再利用したいものだ。

四賀地区だけで 4 つの小学校が廃校。建物の再利用の可能性を探る。

幹線道路をふさぐ勢いで倒れつつある、大量の枯れた松。

※WS＝ワークショップの略

2016.2-2017.4_action ダイジェスト

2016.9/24・25

市民活動フェスタ 2016 in 松本「ぼくらの学校」の講座イベントに講師参加

2016 年度「ぼくらの学校」には展示での参加はできませんでしたが、「松本一受けたい授業」の一つとして平島代表に講義を行ってもらいました。テーマは『暮らしの中でのエネルギーの使い方・作り方』。少人数の公聴者でしたが、前列で高校生が熱心聞き入ってくれたのが印象的でした。エアコンの上手な使い方でできる省エネ、夏の日射しを遮る省エネ、アルミシートを活用した断熱など、具体的な省エネ知識を多数紹介することができました。

2016.10/25

会田中学校公開授業「枯れ木を活かすぼくらの知恵」

10 月 25 日（火）、松本市四賀地区の会田中学校で公開授業「枯れ木を活かすぼくらの知恵」を開催しました。

四賀地区の森林は面積約 6,700ha、広大で重要な地域資源です。このうち約 2,700ha がアカマツ林で、かつては住宅用材として盛んに利用され、アカマツ林に生える松茸は四賀の代名詞でした。ところが、近年マツクイ虫被害が急速に進み、美しい松山が枯れ木の山に変貌しつつあります。一方、この枯れ木を、新たな地域資源として有効利用する動きも出てきています。

そこで、3 年目となる四賀林研グループ主催の会田中学校での公開授業（ワークショップ）は、松枯れ材の製材・加工の利用、バイオマスエネルギー利用の体験ワークショップを中心に実施。地域の未来を担う生徒のみなさんに、地元の森林資源の多様な利用方法について理解を深めてもらいました。

◎授業 1：多目的教室にて聴講授業

主催者の「四賀林研グループ」代表の山岸さんのあいさつで始まった聴講授業。自然エネルギーネットまつもと平島代表による「自然エネルギーと持続可能な社会の基礎知識」と、あづみの再活の松プロジェクトの佐藤さん（安曇野市耕地林務課）による「松枯れのメカニズムや安曇野市の取り組み」という 2 つの講義内容でした。

◎授業 2

木工教室、校舎裏と学有林を利用してのワークショップ

1年生：簡易製材機を使って松枯れ材の製材を実際に体験

2年生：薪割り・竹割り体験、ロケットストーブ実演、モミガライト着火体験&モミガライトクイズ

3年生：木工教室で、松枯れ材を使ってアカゲラ（キツツキ）の巣箱を製作

あいにくの雨模様でしたが、簡易テントとビニールシートを使って屋外での体験授業を実施。おっかなびっくりの製材・薪割り体験、初めて見る稲のもみ殻でできた固形燃料モミガライトなど、地域にあるものを活用した取り組みを体験を通して学んでもらいました。

●開催概要

◎日時：2016 年 10 月 25 日（火）13：30 ~ 15：30

◎対象者：松本市立会田中学校全校生徒及び一般参加者

◎参加費：無料　◎主催：四賀林研グループ

◎共催：自然エネルギーネットまつもと　あづみの再活の松プロジェクト

2016.10/29

ロケットストーブ作り WS in 茅野

3 年目となる茅野市のアノニム・ギャラリーでロケットストーブ作りのワークショップを開催しました。5 台の定数制で募集したところ、早々と定数に達し、当日は 10 人の方々が集まりました。

晴れてはいたものの、屋外作業をするには風が冷たすぎましたが、予定した時間内で全員が作り終えることができました。

アノニム・ギャラリーでのロケット WS は 3 回目ですが、アノニムの素敵な雰囲気がそうさせるのか、毎回参加者同士が和気あいあいと助け合って楽しそうにやっている光景がとても印象的です。